

## 第384回千葉医学会，三輪内科例会

日時 昭和37年2月17日 会場 千葉大学医学部附属病院第1講堂

## 1. 慢性肝炎の臨床病理学的研究

松田 英雄，山中辰之助，松本茂彦  
 穴戸一之介，大和田春郎，山中克己  
 日暮信夫，高橋武男，近藤勉三  
 湯浅直己

肝生検に依り確認された慢性肝炎81例について、生検材料の病理組織学的所見並びに肝機能検査成績を比較検討して、急性肝炎の慢性肝炎への移行、及び急性肝炎の既往のない原発性と考へられる型の慢性肝炎について、形態学的に研究した。

急性肝炎の慢性化について、急性肝炎の肝機能検査所見の正常に復した時期に於いて、組織所見上、間質の肉芽腫様炎症像、結合織の増加、小葉周辺部に於ける活動性の慢性炎症浸潤等が既に見られ、これらの所見は、定型的慢性肝炎の所見と共通所見であり、急性肝炎の慢性肝炎への移行傾向と解釈される。

これの型に対して、間質に炎症性浸潤が軽度であり、肉芽腫様の炎症像なく、結合織の増加に比して、肝実質の肥大再生像の強い一群があるが、これは急性肝炎の既往のないものが大部分であり、原発性の慢性肝炎と解釈され、ウイルス性の急性肝炎より傾向した慢性肝炎とは区別さるべきものと考へる。

## 2. 急性肝障害に於ける AICA の影響

五十嵐正彦，橋本喜久馬，軽部次郎  
 大塚三八雄，尾林秀春，小林弘美  
 大森喜久，大田垣豊穂，大塚文郎  
 橋爪 恵

プリン系核酸前駆物質 AICA について、我々は四塩化炭素による実験的肝障害の家兎血清酵素値、血清蛋白分画の変動及びそれらに及ぼす AICA の影響を観察し、更に白鼠四塩化炭素障害肝の細胞分画に於ける変動についても検討を加へ、次の結果を得た。Ccl<sub>4</sub> 投与時血清 ア・フォ、GOT、GPT は1～3日で最高値に達し、投与後7～14日で投与前値に復し、血清蛋白分画では投与後7日目で A1b 低下、α<sub>1</sub>、γ-glob の増加がみられていたが、AICA 併用の影響はみられなかつた。Ccl<sub>4</sub> 障害白鼠肝組

織の蛋白量、総活性に於いては投与後1～2日で蛋白量は減少、ア・フォは増加、GPT は減少の傾向を示したが、GOT は変動がみられなかつた。各細胞分画に於いては、ア・フォは投与後1日目に核分画の比活性、総活性が増加を示し、AICA 併用によりむしろ減少の傾向を示し、GPT は投与後2日目で核分画の比活性、総活性の増加とマイクロゾーム分画の総活性の減少がみられ、AICA 併用により上清以外の各分画では比活性、総活性の増加がみられていた。

## 3. ベルナーゼ AC の使用経験

神田芳郎，塚崎洵治，山下三郎  
 工藤道夫，木村正人，大竹次郎  
 丸山保雄，森 英夫，永山 之  
 川島栄一

Vernase は *Aspergillus oryzae* の一種より得られた耐酸性消化酵素剤で、蛋白、炭水化物、脂肪を強力に分解する所謂“広範囲スペクトル酵素剤”に含まれる。本剤に塩酸グルタミンを配合した Vernase AC 錠を胃・腸切除後遺症、慢性胃炎、慢性脾炎、胆嚢切除後遺症、肝炎・肝硬変等計26例に投与観察した。これ等の症例では食欲不振、腹部膨満感、下痢、便秘、腹痛等消化吸収障害に基づく愁訴が多いが本剤1日6錠2週間～5週間の投与により4例を除き大部分の症例に自覚症状の改善、体重増加、便性状の好転を認めた。胃液酸度の低下と、脂肪便を示した萎縮性胃炎及び慢性脾炎では特に他覚所見の著しい改善をみた。肝炎6例、肝硬変4例では食欲不振、腹部膨満が多かつたが腹水を伴う肝硬変1例を除き全例に食欲亢進、愁訴の軽減をみた。肝胆道疾患では消化障害が強い上に高蛋白・高カロリー治療食を負荷せねばならないが、本剤等の強力な広範囲スペクトル酵素剤投与で消化障害を除く事は肝疾患治療の重要な1助たり得ると考えられる。

## 4. 無石胆嚢炎の X 線学的研究—胆嚢胆道 X 線像と手術成績について—

西原 滋，小沢一男，八城孝之  
 中山 繁，川崎 亟，大河内 武  
 植草 鞆，片岡忠義

胆嚢胆道系疾患の臨床上、無石胆嚢炎は、内科的